と言って、次々に高雄のかたをぽんとたたいた。高雄は、
「うまくいってよかった。」
という気持ちと、
「自分は気づいていないが、おまえには。」
という父の言葉を思い出していた。

21　来たときよりも美しく

東京の西に、なだらかな山に囲まれた奥多摩（おくたま）というところがあります。

そこに住む石川さんは、今日もまた、大きなリュックサックをせおい、かた手にスコップを持って山に登って行きます。そして、行きかうハイカーたちに、きまって、

「こんにちは。」

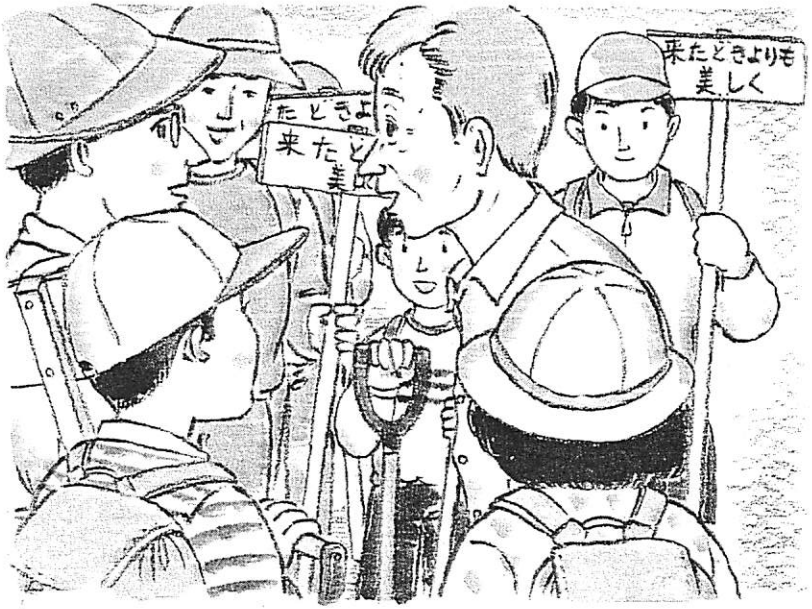
と、声をかけ、

「山を愛してくだされや。来たときよりも美しくしていってくだされや。」

と、付け加えることをわすれません。
石川さんは、会社を定年で退職してから、ここ十年間、毎日のように、一人で奥多摩の山をパトロールしているのです。
「昔の山は、もっと美しかった。ハイキングをする人がふえたのはいいが、エチケットを知らんで。まったくこまったもんだ。」
石川さんは、そう言ってなげくのです。
お弁当のかすも、ジュースの空きかんも、おやつの空き箱も、所かまわずすてていく心ないハイカーに、山はよごされていくばかりです。それだけではなく、石川さんが心配するのは、きんらんや、ぎんらん、それに、あつもりそうなどの植物がぬきとられたり、ふみつけられたりして、どんどんへってきていることです。
「よし、わたし一人でも、ごみ集めをしたり、草木の手入れをしたりして、山の美しさを取りもどそう。なあに、ちりも積もれば山となるさ。」

石川さんは、そう決心して、まず、近くの山をパトロールすることにしたのでした。時には、一日がかりで、遠くの山まで足をのばすこともありました。家を出るときは、空だった大きなリュックサックも、帰って来るときには、紙くずや空きかんで、ふくれ上がっています。
また、石川さんは、コースをはずれて歩くハイカーたちによってふみ固められた所をほり起こしたり、ふみつけられた植物をうつしかえてやったり、そえ木を立ててやったりして、親身になって山の植物の世話をしているのです。
「多摩のお山は、何物にもかえられぬ、わたしたちのたからじゃもんね。」
石川さんは、しみじみと語るのです。
その石川さんを、おどろかせる出来事がありました。
ある朝のこと、石川さんが目を覚ますと、何やら、外がさわがしいのです。何かと思って雨戸を開けると、大ぜいの人々がリュックサックをせおい、手に手にスコップと立て札を持って集まっているのです。小学生や中学生もまざっ

ているようです。びっくりしている石川さんに、集まった人々は、



「おはようございます。」

と、いっせいにあいさつをしました。

「はっ、お、おはようございます。こ、これは一体、何ごとじゃね。」

石川さんは、何が何だかさっぱり分からず、そう言うと、一人の青年が進み出ました。

「おはようございます。わたしたちは石川さんが、毎日山をパトロールしてくださっていることを知って、少しでもお役に立てればと思って集まった者たちです。お手伝いをさせてください。」

石川さんの目からなみだが流れました。

「うれしいことを言ってくれるねえ。うれしいことを。」

あとは、声がつまって言葉になりませんでした。

その日は、集まった人々が手分けをして、山の清掃活動が展開されました。みんなの用意した立て札には、

「来たときよりも美しく」

という標語が書かれていました。

「世の中、すてたもんじゃないな。これで、わたしたちのたからも、また、美しく光ることじゃろうて。」

石川さんは、満足気な顔で、こう言うのでした。

21　来たときよりも美しく

3―(1)　自然の偉大さを知り，自然環境を大切にする。（自然愛・環境保全）

1主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

自然を愛する心情とは，雄大な自然に対する謙虚さや畏敬の念，豊かな感受性をもつことに基づくものである。また，小さな生命からその成長の偉大さを感じ取り，生命のあるものをはぐくもうとする心である。

自然を愛する心を失い，自然環境の荒廃に対して平然としていることは，人間の心が荒廃していることにほかならない。

人間がより人間らしく生きようとするために自然との触れ合いを通して情操を培い，環境保全の大切さを理解し，自然を愛する心をもつことは意義深いことである。

〈子どもの実態について〉

子どもたちの日常生活の中で，草花の美しさ，自然の雄大さに感動したり，小さな生命をはぐくもうとしたりする姿が見られる。しかし，自然は大切なものということを知識としては知っているが，それが自分，あるいは自分たちの生活と密接にかかわっているということにはあまり実感をもっていない。

そこで，自然環境を守っていくことが自分たち自身に密接にかかわる重要な課題であるという意識を育てることが大切だと考える。

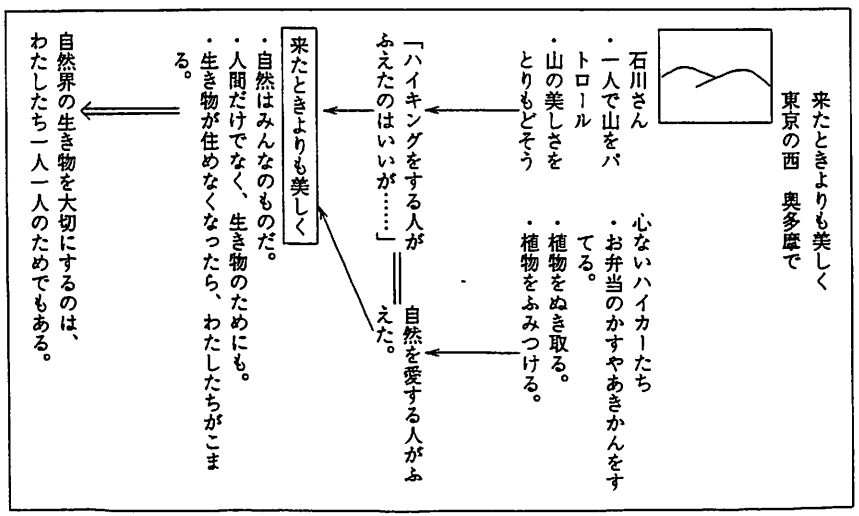
〈資料について〉

奥多摩の山を，会社を定年で退職した石川さんが，ここ10年間，一人で毎日のようにパトロールし，ごみを集めたり，草木の手入れをしながら，「山を愛してくださいね。来たときよりも美しくしていってくださいね。」と，ハイカーたちに呼びかけた。ある日，石川さんの行動に共感した多くの人々が，山の清掃活動に参加し，「来たときよりも美しく」という立て札をたて，美しい奥多摩の自然を守ろうとたちあがったという資料である。この石川さんや仲間の行動に共感し，自然環境を大切にしようとする心情を育てたい。

2ねらい

自然の偉大さを理解し，自然環境を大切にしようとする心情を育てる。

□板書



3展開

学　習　活　動	支援上の留意点
(1)　今までに美しい風景を見た経験やそのときに思ったことなどを話し合う。 ○　今までに美しいなあと感動するような景色を見たことはありますか。	・　ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。
(2)　資料「来たときよりも美しく」を読み，石川さんの気持ちについて話し合う。 ①　石川さんのしたことについてどう思いますか。 ・10年間，毎日のように山をパトロールしたのはすごい。 ・奥多摩の自然を守りたいという気持ちがよくわかる。	・　自然を愛する心はだれにもあるんだという立場で話し合いを深めることができるようにする。
②「むかしの山は，もっと美しかった。ハイキングをする人がふえたのはいいが，エチケットを知らなくて……。まったくこまったもんだ。」と言ってなげいていた石川さんは，どんなことを考えていたのでしょう。 ・自然を愛する人が増えてきたことはいいことだ。 ・ほんとうに自然を愛する人になってもらいたい。	・　心ないハイカーたちも，自然に親しみ自然との触れ合いをもとめてやってきたことや，自分たちにもこのような心があることに気付くようにする。
③「来たときよりも美しく」という標語にはどのような願いや気持ちがこめられているでしょう。 ・自然はわたしたちみんなのものだ。 ・人間だけでなく，他の生き物のためにも自然を守らなくてはならない。 ・自然の生き物が住めなくなったら，わたしたちが困るんだ。	・　自然はみんなのものだという考えから，さらに，人間だけでなく自然の動植物をも含めたみんなのものだという考えへと話し合いを深めるようにしたい。このことが，人間自身の生存にとって大切なことだと気付くようにする。
(3)　自分たちの生活を振り返り，話し合う。 ○　自然環境を大切にするために，何かしたことはありますか。そのときどんな気持ちになりましたか。 ・遠足やハイキングに行ってもごみを持って帰った。 ・物を大切にして，資源のむだづかいをしないようにしている。 ・油などを排水口に流さないようにしている。 ・市や町の清掃奉仕活動に参加した。	・　自然保護は，自然の生態系に目を向け，その生態系の保護こそがほんとうの意味での自然環境を大切にすることであるという立場から，取り組める内容を具体的に話し合えるようにする。 （心のノート　P60・61）
(4)　自然環境の保護の必要性について教師の話を聞く。	・　自然環境の保護が人間自身のためにも，大切であることに気付くようにする。